



活動報告

寺井美津子モダンダンスリサイタル

2005年12月23日 新神戸オリエンタル劇場 ・千羽鶴 ・ポレポレ ・WITH ・花は根に

前日の思わぬ大雪。来て下さるお客様はいるのだろうか、出演者は到着できるのだろうか、とても心配しましたが、おかげさまで無事成功裡に終えることができました。ご来場いただいたみなさま、ご出演およびお手伝いをいただきましたみなさま、本当にありがとうございました。

私が振付した3作品(「ポレポレ」「WITH」「花は根に」)は、いずれも創作実験劇場で上演したもので、初演時にも、今回再演するに当たっても、佳代先生はじめ、多くの方から、様々なアドバイスをいただき、熟成させていった作品です。初演時は作品が生まれ出る勢いですっ飛ばしている部分がありますが、今回は、長く取り組むことで、細かいところまではっきり、くっきり、自分の中でみえてきたとの実感がありました。本格的練習が11月12日以降というタイトなスケジュールも全員が集中したい練習となり、とても充実感のある公演ができたのではないかと自負しています(未だにビデオを見ていないので大きなことをいえるのですが)。

妊娠、出産の1年間のブランク直後、私の中では、自分のリサイタルなんて持たせていただいていた方がいいのだろうかという気持ちと今ここで頑張りたいという気持ちがかさねていましたが、多くの方に支えられて公演を持たせていただき本当に良かったと思っています。

これからも、焦らず、着実に、自分の表現したいことを見つけ、踊れるよう精進していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

寺井美津子

千羽鶴の踊りを初めて踊ったときは、速くて、ついていけなくて、精一杯でした。でも難しかったからこそ、本番で成功したことがとてもうれしかったです。舞台に出たことすべてが自分にとって、とてもプラスになりました。そして、バレエがもっと大好きになりました。

佐藤佑香(西大和教室ジュニア科「千羽鶴」に出演)

ハスミのダンス in 豊岡

2006年1月8日 豊岡市民プラザ ・天使が ・ハスミ doll ・白い小さな花が ・IMUSAH 君風によって ・柿ひとつ

この研究所のビルの入り口に木箱の植木鉢があります。桜草を去年の暮れに植えたら紫色の蕾が上がってきました。やれうれしやと思いますが、二月の寒さを耐えることができるでしょうか。

さて、1月8日。雪の中を豊岡へ、ハスミのダンス in 豊岡 のために行ってきました。たくさん山を越えて行くのですが、どの山も真っ白でした。

出発8時。到着11時45分。舞台稽古12時40分から14時20分。本番15時から16時50分。

ハスミちゃんは一言の不平も言わず、5作品を踊り通しました。お客様の拍手は熱狂的でした。会館始まって以来の大入りでしたそうで、市長さんもお喜びでお礼に楽屋までいらっしゃいました。

この成功をもたらして下さった豊岡市民プラザのメンバーに深く頭をたれてお礼を申し上げ、また同時に、ハスミちゃんの踊りへの情熱とがんばりに感服し、改めて尊敬の念を深めました。ハスミのダンスに出演くださったキョウのこどもたち、カラスのダンサーたち、いつも力を貸してくださりありがとうございます。

藤田佳代

豊岡公演への思いを振りかえり

たくさんを犠牲にして参加して下さった先生、カラスさん、蝶々さん(お母様)。

特別に早い朝から夜遅くまでバスの運転手さんに44名の命を預け(少々オーバーかな?)不安と不服の気持ちを胸に出発(誰も禁句のように口に出さず)

編集者注 当然、参加者はわくわくしていたので、誰の胸にも不安も不服もなかったのだ)

当日のことを思うと今でも少々胸が痛くなります。でも、満客の舞台で豊岡を出発できたことで、当日までのいろいろな思いも雪景色も不安も全部の事が良い思い出になったように思います。もちろん今までの最高の踊りでした。

皆さんもそう思ってくださいているのではと勝手に考えています。

佳代先生、諸先生方、蝶々さん、カラスさん、お母様、本当にありがとうございました。

まだ感激の余韻を味わう日を過ごしております。

安田花仙

一月八日。雪の豊岡にダンスの天使が舞い降りました。

天使は可憐に踊り、可愛い蝶々とたわむれ、男の子になって恋もしました。

カラスの黒の中、紅一点で鮮やかにきめて満場の拍手に包まれ、2006年の前進の一步を踏み出しました。

豊岡では何日も前から雪が降り続き、当日バスが走れるか…と心配されましたが、住吉を8時に出発したバスは、快調に走り窓の外に広がる美しい雪景色を、兵庫県も広い!と実感しながら楽しみました。リサイタル終了後、童心に戻り、30cmの新雪にしっかり長靴の足跡をつけてきました。充実した一日
秋山瑞枝(本部バレエ体操科「柿ひとつ」カラスで出演)

もう一度豊岡へ行きたいなあ。チョウチョは上手に踊れました。

菊原麻理奈(本部幼児科「ハスミ doll」蝶で出演)

バスの窓からお砂糖とクリームが(雪のこと)いっぱいかかっているのが見えてとても不思議でした。先生たちと色々なことをして遊びました。舞台に出るときはちょっぴりドキドキしてたけど上手に踊れました。

菊原麻衣花(本部幼児科「ハスミ doll」蝶で出演)

雪が降っていたので、豊岡まで辿り着けるか、雪のなか、お客さんが来てくれるのかと心配していましたが、超満員で立ち見が出る程の大盛況で本当によかったと思っています。

また、家族4人で参加できたことを嬉しく思っています(編集者注 まいか、まりな姉妹ともう一人は「柿ひとつ」のカラスで出演した舞台名石井麻子さん)。

私は、微力ながら黒衣で参加させていただきました(させられました)。舞台経験数からして、家族のなかで一番緊張していたのは私だったでしょう。たかが黒衣。でも、出るタイミングが難しく不安だったのですが、先生とのアイコンタクトのおかげで舞台の邪魔することなく?務められてホッとしています。舞台に出て踊っている人のすごさを改めて感じました。

菊原 敬(ハスミ doll で椅子の出し入れをしていただきました。)

骨髄バンクふれ愛コンサート

2006年1月22日 アルカイックホール ・松がおどる

1月22日(日)骨髄バンクふれ愛コンサートに、ジュニア舞踊団が出演いたしました。今回踊った“松がおどる”という作品は、夏にもピッコロフェスティバルで踊った作品です。練習は夏の暑い時期から冬の寒い時期にかけて、とても長く感じて、今舞台本番を終えて“やっと終わったー”と同時に“もう終わってしまったのか…”と少しさみしく感じています。

今回のふれ愛コンサートは、アルカイックというとても大きなホールでした。とにかく大きなホールで、舞台での稽古も十分にできないままでしたので、初めはとても不安でしたが、本番はその大きな空間をメンバー、一人一人がうめてくれたと思います。

今回の舞台はメンバー11人、それぞれに大変貴重な経験ができたように思います。ありがとうございました。

向井華奈子

今後の予定

Coming soon !!

創作実験劇場

2006年3月5日(日)5時半始 兵庫県立芸術文化センター小ホール

「風」 作舞 金沢景子 「おーい雲よ」 作舞 寺井美津子 「松がおどる」 作舞 向井華奈子
「ハスミ in spring」 作舞 藤田佳代 「石の魚」 作舞 かじのり子 「分子レベル」 作舞 鎌倉亜矢子
「hide and go seek」 作舞 菊本千永 「私の中のわたし」 作舞 灰谷留理子 「追いかける」 作舞 藤田佳代

創作実験劇場は1994年に第1回目を行い、今回で11回目になります。

毎年おこしいただいている皆さん、きっと楽しみにいただいていることと思います。

でも、中には秋の発表会と全く毛色の違う舞台にとまどいを感じる方もいらっしゃるかもしれません。

毎年恒例だから当たり前のようにもなっている方でも、実は「何だかわからないけど…」と置いていらっしやるかもしれません。

研究所の舞台の大きな柱は、秋の「発表会」と、この「創作実験劇場」にあります。年に1回の佳代先生をはじめとする各教師のリサイタル(昨年は美津子先生でした)はそれらを礎とした総仕上げの場(ベスト盤のようなもの)、そして飛躍の場、挑戦の場として別格といえます。

さて、「創作実験劇場」、もっと楽しんでいただくために、そして、もっともっとたくさんのお知り合いの方にチケットを勧めていただくために、あらためてご紹介させていただきたいと思えます。

読んで字の如く「創作」の“実験”の場です。モダンダンスの命は“創作”することにあります。クラシックバレエが古典的な物語と決められた振付を元にどれだけ「美しく」見せるか、ということが目的なのに対して、モダンダンスは“人間の精神と身体的自由”を追究することが目的といえます。少しかっこよくいうと「生きる」ことの意味を追究する手段として、絵画や音楽演奏や文学のかわりにダンスをしている、ということなのです。芸術家は他人の模倣ではなく自身の内面から湧き出るエネルギーをかたちにすることで“創作”するのですが、研究所の教師たちもその端くれとして“作舞”をすることになるわけです。そして“実験”。ここで発表される作品はほとんどが今回初公開の作品です。それは「成功」するか「失敗」するかかわからないから“実験”なのではなく、自身の作品を世に問う最初の場合から“実験”なのです。そして受けとる皆さんの「戸惑い」や「賞賛」そのものが“実験”なのです。

個々の作品のテーマや思いについては、この紙面では紹介しきれるものではありません。また、それを“作舞”した本人にも完全に説明すること難しいのです。なぜなら、当研究所の作品では顕著なのですが、踊りに込められているのは、言葉や表情という日常生活の表現ではあらわしきれないもの、「生」の根源に関わる何か、なのであり、言葉にできないからこそ「踊り」というかたちをとっているからなのです。

舞台には演技はありません。「うれしい」とか「悲しい」とか、そんな心の動きを超えたところにある、あるいはその根底にある「生きる」ことのつよさを、鍛え上げてきた身体で表現した「踊り」があるだけです。ご覧いただく際には、是非それぞれの作品についてご感想をお持ちください。「あの場面がよかったね」「あの音楽は何の楽器なのかな?」「あの場面はどんなイミがあるんだろう?」「あの曲はよく眠れたね(これは困ります!)」…作品は出品(上演)された瞬間から皆さんのものです。作者の意図だけが作品の全てではありませんから、どうぞおうちに帰った後でも、作品を肴に盛り上がってください。

出品される作品は商業的な計算に基づいたものではありません。だから、公開と同時に大ブームとなるようなものとは決まてありません。

でも、一作品ごとに心を込めて「創作」され、仲間や生徒の皆さんたちとの稽古を積み重ねて作り上げられた踊りは、はじめてモダンダンスをご覧になる方にも、心に響く何かを…「あー面白かった」だけではない何かを、お渡しできるものと信じております。

寄稿 岡村和彦

うらばなし 苦労ばなし …?

一つの舞台をやりとげる…作品を創る、振付ける、覚える、練習する、本番舞台に立つ etc こういう表の苦労とは別に、毎回大変な思いをしていることがあります。会場おさえます。大概は一年前に抽選で会場を押さえます。抽選にはずれると、舞台ができなくなるわけですから、抽選には、“その時一番運の強そうな人”が行くことになっています。私など、抽選運を貯金しておこうと、年末の商店街の抽選すら行きません。今回の創作実験劇場の会場は新しくできた県立芸術文化センター。ライバルもそう…

そして抽選日。その日は、他に誰も都合がつかず、私しか行ける人がいなくて、だから私が抽選に行きました。都合のつく人間が一番運が強い…そういう考えもありますよね?できれば誰かが代わってほしい…抽選運には自信がないよ、と大きなプレッシャーを感じながら行って参りました。というのも、その3年ほど前に私は抽選に失敗しているからです(発表会が11月にあった年です。その前に私は抽選でムートンを引き当てました。ムートンを当てて発表会を外してしまっ…苦い後悔でそれ以降抽選運を貯めることにしました)。

抽選場所に到着して書類を渡すと、「あ、3月5日がご希望ですか?この日は希望される方が特別多くて、この日のみ別抽選になります」と係りの人に言われ、別室にいれられてしまいました。3月5日の希望者は24人。確立4%!!

抽選は2回行います。1回目はくじを引く順番を決める抽選です。2回目の抽選で1番を引いた人に3月5日会場を使用する権利が与えられるのです。1回目の抽選で私が引き当てたのは23番。最後のほう…これはもう誰かが先に1番を引く…と完全にあきらめて、何て言い訳しようと考えながら順番を待ちました。ところが「はい1番が出ました!」という声は聞かれません。1番を引いた人はいるけど全員に抽選させるために黙ってるのかな、と思いながらも自分の番になったので、立ち上がりました。その時、「まだ1番出てないんですよ」との声。残りのカードは2枚。確立50%!いける?箱に手を入れると一枚のカードが手に当たりました。もう一枚のほうかも…でもまあ、手にしっくりくるし、こっちな…と引っ張り出したカードは1番でした。はっはっは!(3年間の)日ごろの行いよ!!ありとあらゆる抽選を断ってよかった!神様ありがとうございます。これからは私は抽選断ちを続けます。

実験劇場本番の一年前からこんなドラマが繰り広げられているのです。…みなさん、ぜひ観に来てください。

菊本千永

編集後記

早春号が出せてよかった。原稿を書いてくださった皆様、本当にありがとうございました。舞台が終わってから、私に声掛けられるの怖いんだけど…そんな声が聞こえつつあります。そう言わずに書いてくださいな。いずれあなたのところへお願いいたします。

責任編集菊本千永